

後援会の会合に参加を

会長 鳥取雄治
 (A4岡山)



桜の芽も色づきかけた今日の頃、皆様方におかれましては益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

日頃より、会員の皆様方には本会活動に対しご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年も卒業或いは入学のシーズンを迎え、卒業生は社会人の一員としての準備を、また、入学生は希望に胸を膨らませていることと思います。

本会では、支部主催による入学生とご父母を対象とした「新入会員説明懇談会」を各地で開催しております。大学という今までと違う環境に少しでも慣れ親しんで頂く為に、また、ご父母の不安を少しでも解消する為に、大学職員を招いてカリキュラムの説明や入学準備、大学近郊の状況等の説明をして頂くと共に、先輩学生の父母会員の情報を交え、新会員との意見交換の場の提供を行っています。

そして5月には、本会の総会を大学において開催し、実施事業内容や決算の承認、事業計画や予算案の承認、そして、役員の変更等を行い、前年度の反省を踏まえて次年度の本会運営の実施方針を決めています。

また、カリキュラムの前期終了時の9月には、全国の会場で先生方を招いて「地域別教育懇談会」を開催し、子どもの単位習得状況や学園生活の状況、また、就職の厳しい状況を説明して頂き、ご父母の相談にのって頂くため、教育相談や個人面談の機会を設けております。しかし残念ながら本年年度の参加状況は約15%と極めて低い状況となっています。

本会役員・理事及び支部役員は一致団結して、大学と家庭とを結び架け橋の一端を担えればとの思いを胸に、皆様方のお役に立てればと思ひ、上記の会の運営は元より、本会の発展のために日夜活動をしております。

皆様方におかれましては、ご都合のつく限り、これら会合へのご出席を賜りたくお願い申し上げます。「大学生にもなつて」とか「大人だから」とかの思いで放任

平成22年度「新入会員説明懇談会」を開催

～新入生とご父母(新入会員)を歓迎～



茨城県支部会場の様子

するのではなく、何時まで経つても子どもは子どもであり、気掛かりな事は相談・協議を行って頂ければと思ひます。悩みは千差万別でも、子どもを思う気持ちは皆さん一緒だと思いますから。

●平成22年度新入会員説明懇談会開催一覧●

開催日	主催支部	開催会場	大学側出席者
1/31(日)	東海	名古屋都市センター	日下部教務課主任
2/7(日)	福島	清稜山倶楽部	大西財務部長補佐
"	青森	青森国際ホテル	鈴木施設管理課長
2/14(日)	北陸	ホテル&レストラン ニチマ倶楽部	林総務課長
"	岩手	北上文化交流センターさくらホール	吉見学生・就職支援課長
2/21(日)	千葉	大学学友会館	江原学生支援課員
2/27(土)	秋田	協働大町ビル	松本LCセンター事務課長
3/7(日)	近畿	小田公民館	杉村総務課主任
"	新潟	長岡グランドホテル	鈴木学生支援課主任
"	長野	ホテルブエナビスタ	倉島用度・管財課長
"	茨城	玉戸三の丸ホテル	藤田総務部長
"	蔵王	パレスグランデール	大塚教務課主任
"	西中国 東中国	サンビーチOKAYAMA	川村総務課主任
"	山梨	ホテル春日居	川島入試室主任
"	栃木	ホテル丸治	栗本教務課長・入試室課長
3/14(日)	群馬	高崎ビューホテル	初見就職支援課主任
"	静岡	清水テルサ	林総務課長/磯経理課主任

1月31日(日)から3月14日(日)にかけて、全国の支部主催による「新入会員説明懇談会」が開催されました。

この懇談会は、この4月から本学に入学が決定した学生のご父母を対象にしたもので、ご子息・ご子女の新生活に不安を抱えているご父母の皆様、大学からの説明や先輩会員からのアドバイスを聞いてもらうことにより、少しでも不安を取り除いていただくこと

が大きな目的となっています。高校までの単なる学校説明会とは異なり、後援会の支部が主催しているため、同じ経験をされてきた先輩ご父母の生の声を伝えることができ、アットホームな歓迎が本会の特長であります。「大学と家庭との架け橋」という重要な役割を担う後援会は、この「初めての出会い」を大切に、学生の成長を大学とともに応援し、見守っていきたくと思ひます。

支部だより

「岩手県人会結成」

副会長・岩手県前支部長
高橋 寛 (E4)



きっかけは、突然にやってきました。

平成20年度の支部総会を兼ねた地域別教育懇談会に柳澤学長をお招きし、私が支部総会で支部長に選任された後での出来事でした。

地懇で個人面談の時間になり、私と学長が雑談をしていた時に、学長が私達のななめ後ろの席に座っていた1年生会員の男性に、「ふと「面談は、どうでした？」と話しかけたところ、「息子が授業に出てないようです」と突然カミングアウトしたのです。

詳しく話を聞くと、ご子息は普通高校からシステム工学科に入学したが授業についていけず、友達も出来ないままアパートにひきこもってしまい、このままだと近い内に退学と言うことになりそう、との話でした。

学長は、勉強については大学で

岩手県人会結成式にて



何とか出来ませんが、友達関係は難しいですね。学内には、青森、秋田の県人会(自主サークル)があるのですが、岩手は無いんですよと話された。

その場に同席していた私は、支部長の初仕事は「これだ!」と思いき「無ければ作りましょう」と学長にお話し、その場でご快諾を頂きました。また当日、来られていた学生支援課の入山主任から、大学に岩手出身の渡部教授が居りますよとアドバイスを頂き、「岩手県人会」を結成する準備がすぐに始まりました。

結成にあたって一番ラッキーだったことは、渡部教授が盛岡のご出身だったことと、たまたま不登校の学生が在籍するシステム工学科の主任だったことで、「私が責

任をもって必ず県人会を作りま

す」と言っていたことでした。これは結成に向けて、大いに励みとなりました。

また、学生支援課の入山主任、鈴木主任にもご尽力頂き、本当に有難うございました。お陰様でその年の11月22日に柳澤学長をお招きし、盛大に結成式を行うことができました。学長はじめ大学関係者の皆様に深く感謝致します。

尚、現在、結成のきっかけとなった学生は無事進級し、楽しい大学生生活を送っているとのこと。

「教育懇談会への参加を」

監事・茨城県前支部長
川上 友久 (S4)



早いもので卒業まで残すところ半月程となつてしまいました。ちょうど4年前の今頃、茨城県支部主催の新生説明会に息子と一緒に参加させていただいたことを思い出します。

茨城県支部は、全支部の中でも会員数約450名と最も大きな支部です。大学がある埼玉県と隣接している県なので、会員の半数近くの

学生が自宅から通学をしています。親が子供と毎日接している為なのか、農業県にて稲刈り時期と重なる為か、総会や教育懇談会への参加率が約19%と低迷しているのが現状で少し残念に思えます。

そのような中、参加された会員の方が「今日は、いろいろ相談できて本当によかった。胸のつかえが無くなりました。有難う御座いました。」とおっしゃって帰っていき姿を見ると、支部役員として、少しでもお役に立てたのかなという安堵感と、教育懇談会の重要性を深く感じさせられます。

また、茨城県支部も、会員の懸案であった支部会報誌「きずな」を昨年創刊することができました。会報誌を通しての参加呼びかけや教育懇談会参加者からのアンケートをもとに、今後随時改善を重ねて、多くの方々が参加いただけることを期待したいと願っております。

各県の支部役員の方々も、子供たちがより良い学生生活を送れるようにと、支部活動を通して日々ご努力されておりますので、まだ一度も教育懇談会にご参加いただいていない全国の会員の皆様、今年こそ是非、お気軽にご参加されてみては如何でしょうか。

最後に、日本工業大学及び後援会が、これから益々ご発展されることを心よりお祈り申し上げます。そして、21世紀を担う学生たちが

秋田県支部総会開催

2月27日(土)、秋田市の協働大町ビルにおいて秋田県支部総会が開催されました。総会に引き続いて「新入会員説明懇談会」が開催され、新入会員と新入生を歓迎し、懇親を深めました。

新山芳美前支部長には、そのご尽力に対し、後援会会長より感謝状が贈呈されました。新支部長には堀田雅人氏が就任しました。



平成21年度開催時の集合写真

が大きく羽ばたくことをご期待致したいと思います。

後援会事務局の皆様には、4年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

「後援会を去るに寄せて」
(人間の風景)

蔵王支部長
山澤 昭一 (E4山形)



作家の司馬遼太郎が残した小説のひとつに「空海の風景」と言うのがあります。内容については主旨ではないので触れませんが、彼は空海の内面に抱えた宗教観を風景に例えて、その中に空海自身をひとつの点景として登場させています。そして司馬自身、それをまた高いところから俯瞰している訳です。

思えば、人間は皆、一個の冒険

者です。

私たちは、その意思の及ばぬところで命を授かります。事実はそののみです。その事実のみを抱えて、人間は人生という未知の舞台に歩み出すのです。そこにはこれまで経験したことのない、さまざまな障害や感動的な場面が用意されているはずで

人はその想像を超えた幾多の場面を、人生の風景の中に取り入れて演じきらなければなりません。生命は一方向ですから、それは誰もが負っている生き物としての業です。

私は、この一年(実際は4年前から)自分に与えられた風景を借景にして、その評価は別にして冒険者を気取ってきました。

私のその風景の中で昨年10月、本学の学園祭に出店した「山形の芋煮」が忘れられません。本部署局の計らいで最一等のブースをもらって、わずか一時間半足らずの中、用意した百食すべてを完売しました。

▼芋煮のブース前には行列が
▲ねじりハチマキにハッピ姿で張り切る山澤さん



肝心の味の方は、食材に懲りすぎ山形土着の味にちよつぱり及ばなかつたのですが、宮代町の若い夫婦が寒空

の下、幼子と一緒にひとつの腕をつつく姿は、私の風景の大事な彩りとして長く脳裏に残るでしょう。

ここまで私を支えて下さった大学の皆様、支部役員と会員の皆様、本当にさまざまな風景をありがとうございました。

蔵王支部を今後もよろしくお願ひ申し上げます。

平成21・22年度
特別事業
駐輪場完成

自転車440台
バイク100台分
が駐輪可能に



正門横 (120台分)

天満宮例祭を奇行



2月27日(土)、キャンパス内にある天満宮社にて、例祭が奇行されました。
式には、田川天満宮崇敬会長、同会の副会長でもある鳥取後援会長をはじめとする崇敬会役員、大川理事長、柳澤学長、庄司宮代町長、学生自治会代表者ら総勢二十余名が参列し、学生諸君の学業成就と健康を祈願しました。

平成21、22年度の特別事業として総会でご承認いただいた駐輪場の設置工事が完了しました。

昨年度、建築学科棟前に屋根付きの駐輪場を設置し、学生に大変喜ばれています。キャンパス内の駐輪場のほとんどが老朽化しており、いずれも建替えが必要な状況にあります。

バイク置場についても、平成17年度に同事業にて設置していただ



東門 (200台分) ※夜間照明点灯時

きました。スペースが不足しており、学生から増設してほしいという要望が寄せられていました。新設されたのは3箇所(左写真参照)。全て屋根付きで、バイク置き場には防音に配慮したパネルを使用しています。

また、夜間照明は、宮代町が導入を推進している青色のライト(人を冷静にさせ盗難抑止の効果が期待されている)を採用しました。



博物館裏 (自転車120台分、バイク100台分)

